

BeNews

2009 SPRING



「P.M.11 : 00 5人の乗客」長浜桂子 他

別府大学通信

NO.98

新しい大学改革に向けて	2	留学生弁論大会に多数出場	16
学校法人別府大学創立100周年記念事業を終えて	3	進路情報センターから	17
対談・学長と明日を語る	4	経済不況に対応、「外国人留学生後援会を発足」	17
新学科の紹介	8	金義晶繊維作品展「祈念のかたち」	18
短大だより	10	石垣祭	19
学園だより	11	秋桜祭	19
研究室探訪	13	サークル紹介	20
日韓次世代交流プロジェクト2008	14	“受賞しました、合格しました”	21
海外研修旅行	15	後輩へ残す言葉	22
名誉博士号授与	16	私が薦める本	23

新しい大学改革に向けて

学校法人別府大学 理事長 日高紘一郎



昨年、別府大学は創立100周年を迎えました。5月には記念式典を挙行し、国内外のご来賓、並びに学園の児童・生徒・学生・教職員5千余名とともに

百年の節目を祝うことができました。またその記念として、メディア教育・研究センター、大分香りの博物館、短大の新校舎を建設し、日韓学生交流プロジェクト、世界遺産国際シンポジウム等の様々な事業を行いました。学園が保育園・幼稚園から大学院までを擁する総合学園として成長できましたのは、学生や教職員の日々の研鑽に加え、学園を支えてくださる関係者の皆様のご理解とご支援の賜物であり、あらためて感謝を申し上げます。

グローバル化する知識基盤社会にあって、時代は大きな変動の過程にあります。このような中、とりわけ大学については、文部科学省の中央教育審議会答申で指摘されているように国際的に通用する質の高い「学士課程教育」を行い、幅広い教養と専門性、高い

倫理性を身に付け社会の発展に貢献できる「21世紀型市民」を育成することが強く求められています。

本学は、このような時代の要請に応えるため、学生の視点に立った順次性のある体系的な教育課程を編成し、授業内容の点検・見直しを進めるなど、徹底的な教育改善に努めています。中でも、今年4月の国際経営学部の新設と文学部の改組は最大の改革であり、カリキュラムに関しても、従来の学科の壁を低くし、主コースのほか副コースの履修を認め、途中で主コースを変えたいと希望する場合にも柔軟に対応できるような制度へと改善しました。また、本学の伝統である少人数教育は、初年次教育の重視と4年間にわたるゼミ形式の授業によってさらに徹底し、大規模な大学では到底実施し得ない、学生の個性を重視したきめ細かな教育を実践してまいります。

私どもは、私学の総合学園として強みを最大限に活かし、百年の歴史と建学の精神「真理はわれらを自由にする」に立脚し、地域社会の要請に応えて行きたいと考えています。別府大学のこれからの取り組みにご期待ください。

学校法人別府大学創立100周年記念事業を終えて

常任理事・法人事務局長 小松伸二郎

学校法人別府大学が平成20年5月に創立100周年を迎えるに当たって、平成19年4月16日付けで学校法人別府大学100周年記念事業推進委員会を組織して西村理事長(現学園長)を顧問、日高副理事長(現理事長)を委員長とし、ほかに5名の委員を委嘱した。

記念事業・記念行事として、記念式典の挙行、記念シンポジウム、文化・スポーツ行事の開催、学園の教育・研究施設・設備の充実として、明豊中学・高等学校の体育館の建設、35号館の食物栄養学部実習棟の増築、36号館食物バイオ学科講義・実習棟の建設、別府大学メディア教育・研究センターの建設、大分香りの博物館の建設、2号館短期大学部講義・実習棟の建設、国際経営学部(平成21年度開設予定)の講義棟や明星小学校校舎の建設を掲げて、創立100周年記念募金委員会を組織して募金活動を行った。

各学校から記念事業を提案してもらい別表が採択された。主なものは、世界遺産国際シンポジウム「世界遺産とは何か」、高句麗壁画展の実施、別府大学ブランドの日本酒の醸造、「大分香りの文化」の公開講座、香りの博物館のオリジナル香水の調香などである。

平成20年5月15日の式典は、理事長のあいさつ、永年勤続表彰、文部科学大臣、大分県知事、別府市長、日本私立大学協会長、海外からの招待者の来賓祝辞のあと来賓紹介が行われて、参加者は、海外92名、国内356名、教職員350名、保護者等200名、学生等約4,000名合計約5,000名であった。また、前日には、国際交流の夕べ、100周年記念国際交流ゴルフ大会が開催された。

南こうせつさんのコンサートでは、ご自身が作曲した校歌を、小学生から高校生までが楽しく歌い、参加者、

特に小学生から大学生まで軽妙なトークと歌で盛り上げて頂いた。

学校法人創立100周年の記念行事・式典を振り返ってみると、海外から理事長や学長が多数式典のために来学して頂いたことや南こうせつさんのコンサートがタイミングよく、同氏のご好意により実施出来たことなど、先人が培った歴史のなかで、人と人の繋がりを、理事長ほか学園の教職員が大切にしてきたことの結果が創立100周年の諸行事などを成功に導いたと思われる。

このことを我々は、地域にある学校法人別府大学として、キャッチフレーズである「100年の伝統 新しい知性 確かな教育、豊かな環境、未来への創造」を肝に銘じて、未来へ教職員一同が一歩一歩向かって行くことが、これからの更なる100年に繋がると思う。

学校法人別府大学 創立100周年記念行事・事業一覧表

所 属	記念行事・事業の内容
文学部	「日韓学生交流プロジェクト」
附属博物館、アジア歴史文化研究所	企画展「遊びをせんとや生まれせん」
附属博物館	「高句麗壁画展」
文化財研究所	「くじゅう・阿蘇草原シンポジウム・火と水から見た草原の利用の歴史」
アーカイブズセンター	学内所蔵の資料の公開
食物栄養科学部	「四季の郷土料理」教室
食物栄養科学部	「100mロールケーキ」の作成
食物栄養科学部	別府大学ブランドの日本酒の醸造
食物栄養科学部	「匂いと香りの文化講座」
史・文化財学科 芸術文化学科	公開講座「世界遺産への道」
吹奏楽団	別府大学吹奏楽団 第2回定期演奏会
明豊中・高 明星小学校	芸術鑑賞会(わらび座)
明星小学校	「明星小学校文化の集い」
附属幼稚園	「みんなあつまれ附属の子」
附属幼稚園	「100歳おめでとうのバス」
附属幼稚園	「オマチマン親子でふれあいコンサート」
食物栄養科学部	竹田 小判大豆フェアー
大分香りの博物館	大分香りの博物館香水購入

対談・学長と明日を語る

次の100周年に向けて夢膨らむ

学校法人別府大学は創立100周年を迎え、これを機に大きな改革を進めようとしている。101年目の新たな一歩を踏み出すに当たり、西村明学長を囲んで学生らが2時間近くにわたって座談会を行った。



友永文学部長 別府大学は大きな改革を進めようとしております。改革の概要について、まず西村明学長からお話をして頂きたいと思っております。



西村学長 この4月から新たな百年に向かって船出をするわけですが、私自身は別府大学に勤務してまだ3年しか経っていません。大学の認識についてはあなた方と同じような状況です。もっとも、学長として仕事をしております関係でこうした方がいいとか、あしたの方がいいとか、色々考えてきました。4月から文学部においてまず大きく変わる点は学科の壁を無くし、多様なコースを設けることです。そして、新しい学部として国際経営学部を開設します。さらに、食物栄養科学部の食物バイオ学科を、名称変更にはすぎませんが、発酵食品学科に変えます。

さらに、4月から入学される新入生に対しては、演習制を採用します。小さな十人ぐらいのクラスがあらちこちらにできて、4年間、学習、アルバイト、生活の悩み、就職とか色々な問題をその先生と話し合っていくようにする。つまり、少人数教育を徹底して、先生と絶えず顔を合わせながら、問題があれば、相談できるというような環境を作らなければならないと思い、カリキュラムの再編と同時に演習制を採用しました。

最後に、就職の問題ですが、これからはやはり就職ということが大切であり、社会に出てどのぐらい自分の力を発揮させるかということについて4年間にわたって

教育しなければならない、つまり、就職できるように教育システムを考え、カリキュラムの中身も変えていかなければなりません。確かに変えていくことは大変ですが、学生諸君には希望と励みを与えることになります。特に今の一年生は、あなたたちの場合はまだ古いシステムが続きますから問題は残りますが、一年生からは変わっていきますし、大学の雰囲気も変わっていくと思います。

友永文学部長 それでまずは、改組になる学科のお二人からお話を聞いてみたいと思います。国文学科は国際言語・文化学科に改組されますけども、永松さん何かこの点につきましてご質問等ございますか。



永松さん 自分の専門分野以外の授業を受けられるようになり、視野を広げることが出来るので、これからに期待しています。やはり、専門だけの知識だけでは、社会に出たときにやっていけないと思いますから。

しかし、これから学ぶ範囲が広がるにあたって、それぞれの専門性が失われないかなと、それが心配なんですけど。

西村学長 そのような心配は恐らくあると思うのですが、目指しているところはそうではないのです。逆に専門性をもっとはっきりさせていくことになると思います。今まで別府大学では学科の壁が高くてそれを越えるのが大変であり、壁の中でしか専門を考えられない。専門というものはそのようなものではなく、その他の領域と比較し、自らの独自性を確立することであると思います。壁がなくなり、自分の専門以外の科目を履修することができ、広く基礎を固め、本当の意味での専門研究に近づくのではないのでしょうか。

(出席者) 西村明学長 友永植文学部長 森口充瞭食物栄養科学部長 国文学科・永松ますみさん 史学科・岡本幸恵さん 食物バイオ学科・星野倫太郎くん

友永文学部長 それでは同じく改組の対象となっております史学科の岡本さん、史学科は文化財学科と統合して史学・文化財学科となるわけですが、その点で何か感想や質問はありますか。



岡本さん やはり今まで100年続いてきた歴史ある史学科と文化財学科が一つの学科になり、史学科の専攻の中でも東洋史、西洋史、アジア史が世界史という大きな形でまとめられることで、専門的に学んできたそれぞれの分野の特徴が活かされなくなるのではないかという心配があります。

西村学長 別府大学としてまず史学・文化財学科に入学したならば、世界史、日本史という全体的で包括なもの、或いは考古学の基礎を勉強してから、自分が細かく具体的に研究したいという時代や対象を確定し、授業科目を選択し、専門演習を取るということになります。非常に細かい専門的な研究ほど非常に広範な基礎知識に支えられていることを理解していただきたいのです。始めから細かい専門に入ると、木を見て森を見ない状況に陥ります。そして更に専門的に高度な研究をしたい場合は大学院に入ってください。大学院に入り専門的な研究をする場合、特に感じられるのは学部での基礎教育です。これからの大学教育は、大学院教育と繋がっております。学部だけでは専門教育は完結しません。本当に専門領域を研究しようとする場合には、大学院に入って研究する、そのために学部段階ではそのための道筋をつけておくということ、そのために広い基礎を勉強しておくことが重要ではないでしょうか。

友永文学部長 私も史学科の一員ですので、少しお話をさせていただきます。ある地域の歴史について非常に高いモチベーションをもっている人は、一年次の段階から関心の合致した研究会に入ってそこで専門的な勉強をし、三年次のゼミを通して関心を深め、将来は大学院を目指すということも可能です。しかし、勉強したいことがまだ定まっていない場合、あるいは広く歴史を勉強したい場合、一年次・二年次にいろいろな地域の歴史を幅広く学び、自分の方向性を少しずつ模索しながら、自分は何を研究するのかということ三年次で決めて、四年次で卒業論

文に取り掛かる、そういったことも可能なんですね。つまり、最初から専門的な勉強もできますし、また、幅広い学びから専門の勉強へ入っていくこともできます。

それでは、改組ほど大きな改革ではありませんが、名称が大きく変わりますバイオ学科、発酵食品と変わるんですが、星野くん、いかがでしょうか。



星野くん 今、森口先生に発酵学を教えてもらったり、有名な先生方の授業を受けさせてもらいながら夢を広げることができました。本当にここに来て良かったなと心から思っています。しかし名前が変わるということで疑問があります。発酵食品学科と言うと、発酵食品だけ、例えば納豆とか味噌とか醤油とか、そういった日本の発酵食品の勉強をピンポイントで示すような形でなるのかな、という疑問が生まれました。食物バイオという、遺伝子工学だとか生化学などの学問も考えられます。だからそのような色々な分野を勉強したいなという人が発酵食品という文字を見て、どうだろうかと。



森口食物栄養科学部長 バイオと言いますと、と、農学部、理学部、工学部、医学部で教育が行われています。すなわち、あまりにもバイオの学門分野の範囲が広すぎるものですから、高校生から「バイオはむずかしそうだ」との意見もあります。私は学部では、非常に目的の明確な学科名の方が、大学院では食物バイオ学のような専攻名の方がよいのではないかと考えています。発酵食品と言いますと、スーパーマーケットで売っていますので、非常に高校生にはわかりやすい。さらに食物バイオ学科の授業科目を直載に表している発酵食品学科という名前にしました。厳密に言いますと発酵・食品学科で、発酵産業、食品産業や環境産業で活躍できる技術者の養成をします。

友永文学部長 私たちは来年度四月から夢を託して、新しい学科をスタートさせます。この新しい学科に対して皆さん方が期待するものを伺いたいと思います。

永松さん これからは違う専門分野の学生同士が交流する機会が増えるのではないかと期待しています。これか

らは一つの学科になり、学生のカラーが多彩になって、活気づいていくといいと思います。

西村学長 なるほどね。そういう側面も私も期待するところです。いままではサークルに入らないと、学科を越えた友達ができにくかったが、これからは日常的に広がっていきます。

岡本さん 今まで、史学科には史学科中心で行ってきた研究活動として史学研究会学生部会という研究会があります。しかし、それは11もの分野に分かれた研究室であり、研究内容は史学に限らず様々です。今も、文化財学科や芸術文化学科など他学科の参加も少人数ながらありますが、まだ、史学科が主体となっている気がします。今後は史学科と文化財学科とが一つの学科になり、壁がなくなるので、興味がある人は気軽に参加してほしいと考えています。

友永文学部長 岡本さんは、今度の学生部会の代表なんです。

西村学長 ああ、そうですか。是非大いに頑張ってください。私は史学研究会の学生の報告に感心しているのですよ。去年、報告を聞きましてけれど、非常に勉強しておられますね。あのような方向が広がっていくと、大学も非常に活気づいてくると思います。

星野くん 四月から新入生が入ってくると人数もだんだんと増えてくると、どうしてもスペースが足りないのではないかと、という不安があるんです。今度ご退職される教授がおられるんですけども、その教授がですね、生化学などの専門分野の本を寄贈してくれるとおっしゃってくれていて、その専門書を置くスペースが大学の図書館に無いと思うんです。大学の図書館のほうには専門の本もそんなに多くないんで、それで食物栄養棟のほうには専用の資料室という形で図書室があるように、そういう専門の本を僕たちも有効に利用していきたいなと思っています。

西村学長 そういう問題については、学生諸君でよく話し合っただけでなく、学科長とか学部長に相談されるのがよいと思います。ただ図書については、それぞれの使い勝手と言う

ことから考えることができますが、大学院の研究資料は別ですけど、学部としては集中型で、食物なら食物だけが使うというのではなく、他学部、地域の人も使うこともあるから、一箇所に集中管理する方がよいように思います。もっとも学部の大きさ、設置場所の問題があり、食物関係の書物を食物栄養科学部に集中する方がよい場合もあります。その場合には、書籍や資料を置くだけでなく、管理体制がしっかりしていなければなりません。これから国際経営学部棟ができますから、そこに経済学関係の本を全部集めますので、中央図書館にスペースができます。そこに食物関係の文献・書籍を集中し、使い易くするのも方法ではないでしょうか。

星野くん 英語とかも一緒に学ばしてもらっているんですけども、入った時の英語の授業のレベルがですね、あまりにも低すぎるんじゃないかなと。

西村学長 御指摘の点は誠に重要なことだと思います。そこで、英語を担当している先生方が熱心に検討し、これからは習熟度別クラスに分けて、学生の学習経験を踏まえて授業を行っていくとしていきます。それと、英語をやはり必須にしなければ、これからの国際社会に生きていけない。そこで、4月から必修にします。

岡本さん 一年時に基礎ゼミというものがあって、それは学力の向上、専門知識の向上という面ですごく良かったと思うのですが新しいカリキュラムになる上でどのように適用されるのですか。

西村学長 適用は新入生からになります。今度の演習システムでは、一年生のはじめから専門の演習をしないで、先ず導入演習では大学とは何であるのか、何のために大学で学ぶのかを勉強します。つまり、大学に入ってきた目的を先生方の経験や考えをとおして、先ず前期と一緒に考え、後期の基礎ゼミでは、専門に行くためにはどのようなことを勉強したらいいのかを先生方と相談しながら、勉強し、自らの学習体制を確立していただく。そして二年生に上がって専門学習に近づいていきます。

岡本さん それは新しいカリキュラムになる新入生からということですか。

西村学長 4月以降の2年生以上の在学生については、適用されませんね。あなたたちの場合には、古いカリキュラムにしたがっておりますから、演習制を導入することができません。

永松さん 私は、大学自体の学力を上げることを考えた方がいいと思うんです。これから先、社会に出ていく上で、国立大学出身の人や有名私立大学の人と同じフィールドで戦っていかなければいけませんよね。大学の外のことをちゃんと見て、それに対して学生がそれぞれ自分の能力を向上させていく努力をしていかないといけないと思うんです。今の別府大学は、学生がたくさん入ってくるように入試の壁が低くなっていて、そこはいろんな学生さんが入ってくるのでいいと思いますが、入学してからは、学生同士が競い合っていく部分がないといけないと思うんです。そのために、何か具体的な方法はないかと考えたんですが、今別府大学にはスポーツと吹奏楽の奨学生制度があるようですが、学生の学力によって学費を免除する制度があってもいいのではないかと。

西村学長 わかりました。今年から国際経営学部ではそれを取り入れました。勉強の方でしっかりやっという優秀な学生には、奨学金を設けるように理事会は配慮してくれました。来年度からは、短期学部も含めてそれは全学部に広がります。スポーツについては、そのあり方について検討していかなければならないと思います。スポーツと学力が伴うことが大切です。

さて奨学金で学力を上げていくということも大切ですが、学生だけの問題でなく、先生方の教育力を高めて、学生全体の学習力を高めていかなければなりません。先生方はよく勉強し、色々なことよく知っておられますが、それをただ学生に与えているだけでは、学生は興味を示さないし、吸収したいとも思わない。吸収の仕方にはいろいろあるわけで、先生方の教育力が今一番大切になっているように思います。

友永文学部長 私も長いこと大学にいますが、記憶をたどっても、この様な企画は初めてじゃないかなと思うんです。最後に学長に直接学生さんとお話しされたことについての感想を少しお聞きして、この対談を締めくくりたいと思います。

西村学長 わたしも前期、後期にそれぞれ授業科目を二つ担当しています。大学の業務などで非常に忙しいのですが、授業するのが一番楽しいです。この大学に来て非常にいいのは、学生が良く静かに講義を聞いていることです。そしてベルや鐘がないのが一番好きですね。鐘やベルに強制されないで、自ら時間割を見て、先生が来る前に教室に入って、先生の話聞き、終わったら、自ら次の講義に行くというシステムは大学の本来の姿ではないでしょうか。いま友永文学部長が言われたように、今日初めて具体的にあなたたちの声を聞いて私は非常に勉強になりました。あなたたちが思っていることを、まだもっと色々あると思いますが、率直にいただければよいと思います。また機会をつくり、いろいろと親しく話していくことが大切であると思います。そして、これからゼミの中で先生と親しくなっていけば、状況はさらに良くなると思います。また、学長と何か話をしたいということがあれば、また時間をつくってお話させていただければと思っています。今日はどうもありがとうございました。

永松さん こうやって違う学科の人の意見を聞いて、向上心が高まり、とても影響を受けました。自分が別府大学のためにこれから何をしていくか、そして別府大学に入学して別府大学でしかできないことは何なのかを見つめなおす機会になり、良かったです。

岡本さん 学部が変わるということで、すごく不安な気持ちが強かったのですが、直接このように意見を聞くことで安心し、むしろこれから大学の発展に期待しています。学生部会を中心に頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

星野くん なんかこう不満ばかりを言ったような、感じになったんですけども、森口先生とか学長先生の話聞いて、発酵食品学科という名前をもっと愛せるようになれば、この学校の大学のために自分ができることをやっていって、周りの友達にもこれを広めていって、将来卒業した時に、胸を張って言えるような大学にしていけたらなと、感じました。

友永文学部長 皆さん、今日はどうもありがとうございました。

新学科の紹介

国際言語・文化学科（文学部）



国際言語・文化学科では、1年次は主に基礎的なことに専念し、2年次からは以下の からのコースに分かれ、応用と専門の領域について複合的に学習します。また卒業要件以外の科目の習得により、中学の国語・

英語・美術、高校の国語・英語・書道・美術の教員、博物館・美術館・資料館の学芸員、図書館の司書等の免許が取得できます。さらに副コース制の導入により、日本語・日本文化、英語・英米文学、国際文化、芸術の各領域から幅広く学ぶことができ、教員免許も複数同時に取得できます（英語と国語、国語と芸術、英語と芸術）。

日本語・日本文学コース：多角的に日本語と日本文学を学び、日本文化の深い理解力を養います。

英語・英米文学コース：英語と英米文学を学び、高度な英語力をつけます。

国際文化コース：日本文化と国際理解を軸に多様な文化交流を学びます。

書道、デザイン、マンガ・アニメーション、絵画（芸術コース）ではそれぞれの専門実技を中心に学びます。

（衛藤賢史）

取得できる免許・資格

中学校教諭（国語、英語、美術）、高校教諭（国語、英語、書道、美術）一種免許状、学芸員、司書、司書教諭

特色ある科目

日本文学講義概説、日本語学研究、英語音声学、美術史、映像学、脚本研究、実技制作、書道、マンガ・アニメーション、絵画、デザイン制作

史学・文化財学科（文学部）



2009年度から史学科と文化財学科は「史学・文化財学科」という一つの学科になります。この学科では日本史・世界史から考古・民俗・環境・保存科学等々幅広く歴史を学ぶこと

ができるようになります。現代の複雑な状況に対応していくためには、現在までの歴史の総合的な理解が必須であると思うからです。それと合わせて、史学・文化財学科では「学生力」を養成しようと考えています。2008年、別府大学は100周年記念シンポジウム「世界遺産とは何か」を開催しましたが、史学研究会では学生部会が世界遺産に関するポスターセッションを行いました。初めての試みで非常に高度の技術が必要でしたが、ポスターはA0用紙に直接印刷することにしました。それでも学生部会の面々は果敢にチャレンジし、見事にA0用紙一枚にポスターを完成させました。まさにこのような「学生力」が今求められているのです。

（山本晴樹）

取得できる免許・資格

中学校教諭（社会）、高校教諭（地理歴史、公民）一種免許状、文書館専門職員（アーキビスト）、学芸員、司書、司書教諭

特色ある科目

日本史特講（中世史・近代史）、世界史特講（東洋史・西洋史）、考古学特講（弥生・古墳時代論）、環境歴史学特講

発酵食品学科（食物栄養科学部）



“21世紀は「発酵の時代」である。地球環境を守る、人々の生命を守る、人々の食糧をつくる、新しいエネルギーを創造するなど、21世紀になっても私たちをとり巻く課題は少なくない。それを、目に見えない発酵微生物で、

地球にやさしく、そして人間にやさしい方法で解決するのが私が提唱している「発酵革命」(FT革命)である。その中で今、社会から最も注目をあびているのが発酵食品である。美味しい、保存が効く、手づくりである、伝統食品である、などといった従来の評価に加えて、最近ではこの食品が体のためにとてもすばらしい働きや効能を有していることがわかった。”上記の文章は自称「発酵飯面」、小泉武夫先生（別府大学客員教授）の発酵食品学科を志す受験生へのメッセージです。別府大学の「食物バイオ学科」は平成21年度から日本唯一の「発酵食品学科」に名称が変わります。FT革命で21世紀の「食」と「健康」を育てる学科です。

（古川謙介）

取得できる免許・資格

中学校教諭（理科）、高校教諭（理科）一種免許状、食品衛生管理者、食品衛生監視員

特色ある科目

バイオテクノロジー論、食品分析学実験、微生物工学実験、酒類生産学実験、臨地実習

国際経営学科（国際経営学部）



国際経営学部は社会・経済・文化のグローバル化に伴い、多様化する社会的ニーズに対応しながら、地域振興に貢献する人材養成を目指します。その方策として、本学が永年培ってきた教育研究システムを最大限活用するとともに、語学教育を強化します。

具体的な人材養成の方策として「国際経営」「会計・税理士」「観光経営」の3コースを設けます。これによって、グローバルな視点から企業経営をマネジメントする人材、資格を持つスキルの高い人材、観光を柱とした地域振興を担う人材を育てていきます。

こうした人材を養成するために特色ある授業を数多く開講し、教員も国際会計・税務・国際マーケティング・情報経営・観光経営などの分野で活躍する研究者・企業人を配しています。また、1年次からゼミを実施することによって少人数による「学びの場」を設け、学びのノウハウから知的探求心の形成、そして専門知識の習得へと導きます。

本学から、新たにグローバルな視点で学ぶ知の拠点が、いよいよスタートします。

（中山昭則）

取得できる免許・資格

中学校教諭（社会）高校教諭（公民、商業、情報）一種免許状、税理士（受験資格）中小企業診断士（受験資格）

特色ある科目

国際経営論、国際関係論、金融工学、中小企業論、情報科学概論、観光地理学、国際観光経営、戦略マネジメント

短大だより

初等教育科・保育科「造形展」



昨年12月20日(土) 21日(日)の2日間、大分市のiichiko総合文化センターにおいて初等教育科・保育科合同の造形展が開催された。この展覧会は音楽会と造形展を1年毎に交代で行っている学生による展覧会で、附属幼稚園、明星幼稚園の園児の作品も一緒に展示された。

今回の造形展のテーマは「線の造形」と題し、竹や針金、紙、糸など様々な素材を使って、いろんな形態の作品を会場であるアトリウムプラザに設置した。大きな作品では1本9mの竹を15本組み合わせてできる直径6mのスタードームや竹を螺旋状に組み合わせて作った高さ4mほどのクリスマスツリーは、多くの来場者の印象に残ったようだ。針金や紙でできたオブジェはいろんな動物の形態やユニークな形のかぼちゃの馬車などの繊細な作品も多く、子どもや大人たちの目を楽しませてくれた。また、平面作品でペンで描いた直線や曲線が幾重も重なることによりできるデザイン的な表現やインクを画面上に垂らし息を吹きかけてできる絵画的な表現の作品も展示され、会場は様々な線の造形の展覧会となった。あっという間の賑やかな2日間であったが、研究会によるハンドベルや人形劇などの活きた発表が会場に花を添えた。

(保育科 伊藤昭博)

「進路支援対策一貫システムの構築」 - 地域総合科学科の新たな取組 -

地域総合科学科は、平成16年に経営情報文化科と英語コミュニケーション科を改組転換して発足した。近年産業界等からは、即戦力となる人材が求められ、特にパソコンやコミュニケーション能力等が重要視される傾向にある。これらに的確に対応するため、本学科では各種進路支援対策を講じている。今回、地域総合科学科ではこれまでの対応の充実を図り、進路支援対策一貫システムを構築した。

その主な内容は、進路支援プラザの新設により、進路支援の充実やパソコンの整備、入学前の学生に対する卒業生との懇談会の実施、1年前期の進路対策講座、宿泊セミナーの実施、1年夏休みの基礎学力充実講座の実施、1年後期の進路対策講座の充実、先輩との懇談会や産・学・官連携のシンポジウムの実施、1年春休みのインターンシップ交流の新設。進路対策講座の充実、2年次の進路選択、実践講座の新設等である。

これらにより、現代の学生に欠けている進路・目的意識、就業意識、勤労意欲の高揚や資格取得、進路対策の充実等を図ることが可能となり、社会問題となっているニートやフリーター対策にも効果があるものと思われる。

評価体制は、計画・実行・評価・改善のサイクルを実施。また、PDSシステムにより、反省点は次の目標設定に連動させ、効果的な支援策を講じる。結果として、自主性の涵養による学習の成果、資格取得、就職、編入学等によりよい結果を生み出すとともに目的意識、忍耐力、よりよいマナー等を備えた学生を育成することが可能となる。

(短期大学部学長 田中恒治)

学園だより

祝 2年連続 センバツ出場！ 明豊高等学校野球部

第81回選抜高等学校野球大会に明豊高等学校野球部が出場することが1月23日に決定しました。昨年に続いての出場で、今回を合わせて春と夏を2回ずつ、計4回出場したことになります。また大分県からの同一校2年連続出場は、昭和45、46年の津久見高等学校以来で38年ぶりの快挙を成し遂げました。

寒風とみぞれが降る中、野球場で出場決定の知らせを聞いた部員は、満面に笑みを堪えながら喜びに浸っていました。取材陣の対応の後は普段の練習に戻り、一段と引き締まった表情で各々の課題に取り組んでいました。

明豊高等学校野球部は、つながりと破壊力のある打線と投手を中心とした鉄壁の守備力を持ち、今大会の優勝候補校のうちの1校と言われています。

今大会は3月13日に組み合わせ抽選会、21日に開幕を迎えます。明豊高等学校野球部の甲子園における大躍進が期待されます。



国際経営学部棟が完成

4月に開設する国際経営学部の校舎が完成し、2月23日に竣工式が行われました。式には学校法人別府大学の日高紘一郎理事長、西村駿一学園長、西村明別府大学学長ら約70人が出席し、完成を祝いました。

校舎は5階建て。1階には図書館と学習スペースを備えた「ラーニングコモンズ」が設置され、2万冊弱の蔵書を持つ図書館には主に経済、観光関係の本・資料が置かれる見通しです。2～4階には72人～118人を収容する講義室が計13室あるほか、少数教育を行う演習室も計6室設けられています。

また、最上階には専任教員らが入る研究室が立ち並ぶことから、「学生との距離を小さくすることで身近な付き合いができる」(西村明学長)環境が整います。

竣工式では日高理事長が、大学を挙げて新学部の充実・発展に力を入れていきたいと表明。施工業者を代表して梅林建設の梅林秀伍社長が「国際化時代の要請を担った国際経営学部は、必ず九州一のユニークな学部になると思います」と述べました。



学園だより

「命の尊さとは - 」 附属看護専門学校

昨年4月附属看護専門学校の合同宿泊研修が行われました。研修では11月に亡くなられた山田泉先生の命の授業が行われました。抗がん剤の治療中での授業でした。山田先生に包まれるような力を感じながら、相手を理解しようとする気持ちや相手の立場に立った考え方、看護師になろうと決意したきっかけ等を思い出し、その後の実習へも思いを繋げることができました。

また今年1月9日には、山田先生が最後の時を過ごされたホスピスの、大分ふゆみ病院長の山岡憲夫先生の講演を聴き、入院患者が笑顔で充実した日々を過していることを知りました。看護師は患者との関わりの中で支えられ、看護を続けることが出来ると思います。講演を通じて、「患者を看護させて頂く」という心を学ぶことができました。卒業後はこの気持ちを忘れず、患者の苦痛に寄り添うことができる看護師になろうと思います。

(附属看護専門学校2年 後藤裕美)



「うれしい訪問客」 附属幼稚園

附属幼稚園には多くの方が訪れます。その中でもうれしい訪問客は卒園児やその保護者です。

「先生、僕憶えていますか です。この森で基地を作って楽しかったなぁ」「今の考え方のベースは幼稚園児時代にあります。」などと園先生の思い出を語ってくれたり、親などと園生活の思い出を語ってくれたり親になって我が子を入園させて幼い日の体験をなつかしそうに話してくれます。

今年度は、別府大学創立100周年の年であることを記念して多くの卒園生や関係の方々が集まって楽しく盛大な一日を過ごしました。“べっぷだいがく100さいのおたんじょうびおめでとう - みんなあつまれふぞくの子 - ”「別府大学創立100周年記念の集い」として、歴代の園長、職員、育友会長、卒園生がそれぞれ楽しい思い出語りをしたり、在園児が伝統の別大ソーラン節を披露したり参加者全員で園歌の大合唱をしたりして楽しみました。本園の宝の森で、「森の展覧会」も同時開催し、個性のあふれた作品が森の中で輝いていたのでした。

(附属幼稚園長 後藤節美)



研究室探訪

料理・食育研究で実績

立松研究室（短大・食物栄養科）

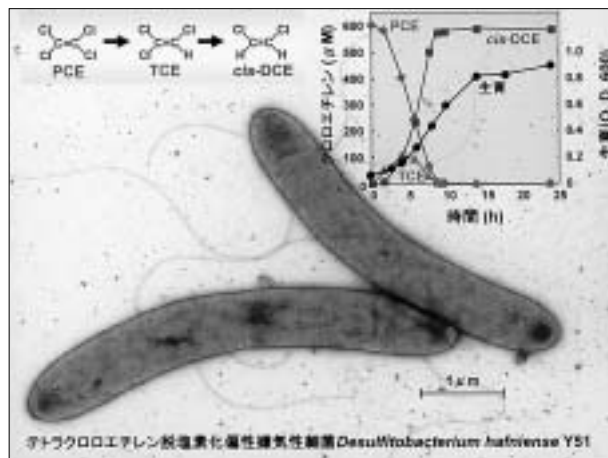
食物栄養科では、将来の栄養士や教員としてのより一層の資質向上の為に、学生が自主的に色々な課題を見つけ研究出来るように、各専門教員の基に研究会が設けられている。立松研究会は、現在26名が小グループに分かれ、料理研究や食育研究に取り組んでいる。活動内容は、野菜おやつの研究では「野菜おやつ」の本を出版をする等。食育教材研究では、開発教材が多くの人に活用される喜びを感じ、障害児の料理教室では指導案に沿って子どもたちに教える楽しさや難しさを実感し、障害児・者のテーブルマナー講習会では、フルコース献立の創作と調理の出来映えが大変好評で充実感と感動を味わった。料理コンクールにも参加し毎年優秀賞を獲得している。大豆や米の生産や加工（酒・みそ）を通した食農教育の実践にも関わり、自分自身で実績を積んでいる。他にも、メタボリック解消の食事・ヘルシープライダル献立・行事食・新しいおやつの研究に取り組んでいる。



進化分子工学に取り組む

古川研究室（発酵食品学科）

微生物は地球の物質分解、元素循環に主要な役割を演じています。しかし、人類の作り出す化学物質は10数万種類、そのうち有機塩素化学物質は難分解性で、世界各国で深刻な環境汚染物質となっています。私はこれまでに水俣病の原因物質の有機水銀、カネミ油症事件のPCB、半導体洗浄やドライクリーニングなどで多用されたクロロエチレン類を分解する微生物の研究を行ってきました。これらの微生物から分解遺伝子を取り出し、試験管内で進化させ、進化した遺伝子を元の遺伝子と置換して強力な分解菌スーパー微生物の育種を行っています。このような手法を進化分子工学と称します。写真はテトラクロロエチレンを強力に脱塩素化する偏性嫌気性細菌です。これらの研究と並行して、三和酒類（株）と共同研究を実施、別府地獄の好熱菌、香り高い焼酎酵母の探索・分離を行っています。



日韓次世代交流プロジェクト2008



2003年、2004年と韓国慶州市の韓日未来プロジェクト以来、2度にわたって別府大学の学生が韓国に招聘され、韓国の文化を体験・交流が行われました。2005年には、そのお礼として、本学と宇佐市の企画で韓国の慶州大学校（4年生大学）の学生を招聘し、日本文化の体験と交流を通して、日韓の未来づくりに貢献しました。

今回の事業は、本学の100周年の記念事業として、2005年の企画を発展させ、日韓の次世代の未来づくりを確かなものにするプロジェクトでした。韓国の姉妹大学校の中から8大学校の16人の学生と引率教員2名を招聘し、本学の4年生部門から選抜された16人の学生が、8月18日～22日の5日間、寝食を共にして日本ことに大分の歴史・文化に触れてもらい交流を図りお互いの文化の理解を深めました。

本事業では、宇佐市をはじめ県内の多くの団体の援助を受けました。特に宇佐市の麻生地区では、住民の方の

ご協力で、盆踊り、素麺流し、餅つき、神楽の実演など日本の文化の体験プログラムを企画していただきました。その後、三和酒類の工場見学、宇佐神宮、国東市のやよいの村、富貴寺、田染荘、昭和の町、大分香りの博物館、別府鉄輪裏路地めぐり、臼杵の磨崖仏、臼杵の街、湯布院の街などをめぐり歴史・文化財、今の日本の暮らしの体験をしました。

報告づくりのために、毎晩議論してきた成果です。この事業の成果は、韓国東義大学学生の感想文によく表れています。「すべてのプロジェクトが終わって、みんなと別れの時間を過ごしたとき、日本の学生や韓国の学生のなかで生じたつながりがすごいことに気がつきました。普通にできないいろいろな体験を通じて、国境もない友達を得ました。これからは地球のすべての民族が協力しながら生きていかなければなりません。このような時代にこのような出会いをして100万\$の宝物を得た気持です。」

（文化財学科 飯沼賢司）



海外研修旅行

韓国（短大・初等教育科）

平成20年10月29日から9月1日まで、3泊4日の旅程で韓国大邱市と釜山市の姉妹大学を研修訪問しました。大邱市では2班に分かれて、大邱科学大学と栄進専門大学を訪問し、途中で慶州の古墳・仏教遺跡を観光、釜山市では慶南情報大学を訪問しました。



韓国は大学・短大への進学率が80%を越える状況にあるためいずれの大学も生き残りをかけて、ハイグレードな教育設備と高度なカリキュラムが準備されているのには感心しました。今回の訪問研修プログラムは、学内での現地学生との交流と付属幼稚園の授業への実習形態での参加でした。

後日、今回訪問先の大邱科学大学から別府大学への訪問研修があり、お世話になった学生達と感激の中で再会を果たし、国際交流のすばらしさをあらためて実感したものでした。

（初等教育科 中村廣光）

短期大学部 2008 年度の海外研修旅行

学 科	研修先	目 的
食物栄養科	台湾	台湾、中国の伝統料理を味わい、料理法、調味料、食材について学ぶ。
初等教育科 保育科合同	ソウル、釜山、大邱	韓国の姉妹校での施設見学や文化交流、および観光を通して、国際的視野を養う。
地域総合科 学科	釜山、慶州	日本と韓国を比較考察し、姉妹校流することで、異文化に触れ、国際的視野を広げる。

ドイツ（文学部・史学科）



史学科では、平成20年9月9日～17日の9日間、ドイツ・チェコの世界文化遺産を訪ねる海外研修を実施しました。参加者は学生23名、教員1名に、旅行会社の添乗員とガイドを加えた総勢26名。貸し切りバスとICE(ドイツ高速鉄道)を使って、ドイツをぐるりと周り、途中チェコのブラハに立ち寄る計画で、ケルン、アーヘン、ベルリン、ポツダム、ドレスデン、ブラハ、ヴュルツブルク、ローテンブルク、ハイデルベルクの各都市を訪ねました。ケルン大聖堂では、息を切らしながら自分の足で登りその巨大さを実感しました。ポツダムでは、ポツダム会談が開かれたツェツィーリエン宮殿を訪れ、歴史の現場を実感することができました。ブラハのカレル橋では、世界で一番掏摸が多い場所と、ガイドさんから脅かされ鞆をしっかりと抱え身構えたのも良い思い出です。歴史の現場に実際に立ち臨むことで、歴史的遺産に触れ歴史の重みを肌で実感することができただけでなく、ヨーロッパの文化や街並み、風土、雰囲気を経験することができた研修旅行でした。これらの体験を、大学でのこれからの学習へと結び付けていくことが今後の課題です。

（史学科 野村文宏）

名誉博士称号授与



平成20年12月4日に学校法人別府大学名誉博士称号授与式が行われた。今回授与されたのは稲江科技管理学院(台湾)の邱鏡淳薫事、仁済学院(韓国)の白樂皖理事長、東義学園(韓国)の金任植理事長、昌信大学(韓国)の姜乗道学長の4氏で、合計18名となった。

授与式では、西村学園長が4氏のこれまでの功績を讃えて挨拶し、日高理事長から称号記が授与された。邱鏡淳氏:「別府大学の建学の精神「真理は我らを自由にする」という言葉に大変感銘を受け、学術研究の面でも心理を探究していきたい」。金任植氏:「人格と学問を磨いて人間の正しい道理を实践することが大切と考え、創造的で道徳的な人間を育成するために東義学園を設立しました。」白樂皖氏:「これからも人類の平和と福祉のために力を注いでいきたい」。姜乗道氏:「これからは、別府大学の一員として微力ながら、建学の精神のもとで、成長する別府大学の発展に貢献していきたい」。

(総務課 宇野世史也)

留学生弁論大会に多数出場

毎年、留学生による日本語弁論大会が数カ所で開催されています。本学の留学生の参加・受賞を報告します。2008年11月5日に楊志館高等学校(後藤学園)で「第6回外国人による日本語スピーチコンテスト」が行われ、国文学科3年生の馬娟(中国)さんが優秀賞を受賞しました。11月9日には大分市コンパルホールで「女子留学生日本語弁論大会 大分県大会」が行われ、別府大学からは5名の留学生が出場し、人間関係学科3年生の劉曉華(中国)さんが最優秀賞を、英文学科4年生の洪望瑩(中国)さんが優秀賞を受賞しました。他出場者は国文学科3年の二マさんと李海燕(中国)さん、英文学科2年のチンゾリグト・ムフツェツェグ(モンゴル)さんでした。劉さんはさらに11月24日の全国大会出場を果たし、「努力賞」を受賞しました。また、11月15日には20周年を迎えた大分地域留学生交流推進会議主催の「留学生による日本語弁論大会」が大分市西部公民館で行われ、国文学科3年生の吳兆昊(中国)さんと文学部短期留学生の柳延花(韓国)さんが優良賞を受賞しました。

(国文学科 松田美香)



経済不況に対応、 「外国人留学生後援会」を発足

アメリカの金融危機に端を発した世界的な経済不況という状況下において、留学生を取り巻く生活環境は厳しさを増しつつあります。円高や韓国のウォン安を反映した母国からの送金額の減少、アルバイト先の減少など生活上の様々な問題が生じてきました。本学では、生活の維持が困難となった留学生を支援するための「外国人留学生後援会」を2009年1月に設立しました。西村明大学長が会長、田中恒治短期大学部学長が副会長となり、その下に大学と短期大学部の両学生部長を中心とする幹事会が置かれ、支援活動に動き出しました。本学の教職員を会員として会費を徴収するとともに、市民の方々へも寄付を呼びかけた。具体的には、米・インスタントラーメンなどの食料品を配布し、のべ500人以上の留学生が受け取りました。会費・募金は250万円以上に達し、2月24日には大分市に本社を置く「大分エル・エヌ・ジー」が本学を訪れ、「留学生支援に役立てて下さい」と現金30万円の寄付をいただきました。

(学生部長 利光正文)



大分LNG株式会社から寄付金贈呈

キム ウイ チョン 金義晶纖維作品展 いのり 「祈念のかたち」

別府大学附属博物館は、別府大学短期大学部と共に平成21年1月14日(火)から20日(水)にかけて新館2階展示ホールで金義晶纖維作品展「祈念(いのり)のかたち」を開催しました。金義晶先生は、別府大学短期大学部の姉妹校である漢陽女子大学の繊維デザイン科の教授で、学术交流の一環として本校で作品展を開催することになったものです。金教授はエナメル線に紙紐、韓紙にパルプなど、ユニークな素材を用いて繊維作品を制作されています。このような素材を用いて山や波など自然を抽象化して表現されており、きわめて個性的な作品であるといえます。テープカットなどの開幕式の様子がテレビで放映されて新聞にも掲載されましたので、会期が短かったのにもかかわらず、学生のみならず、多くの一般参観者も来館されました。本校の学生にとっても勉強になりましたが、このような展示で韓国と日本との国際交流ができたことは、とても良かったと思っております。

(別府大学附属博物

館長 段上達雄)



金義晶先生と作品

進路情報センターから

3年次生の就職活動が本格的にスタート

「2009年学内合同企業等説明会」開催

2月4日(水)に本学の就職支援の柱であり、3年次生の就職に向けての本格的な活動のスタートを後押しする、就職面接会を開催しました。

学生は、3号館ホールにて、実施要領の説明を受けた後、各企業、団体毎とのブースを訪問した。

今回は、食物栄養科学部・食物バイオ学科の3年次生が初めての参加で製造業のフンドーキン醤油、フードサービス業のジョイフルなどの訪問が目立った。仕事内容や社風について説明してくれる貴重な機会。学生は自分の思いの企業に訪問し直接企業の方より会社の概要や普段なかなか聞けない話疑問点を質問するなどして今後の本格的な就職活動を始める学生諸君にとって大いに役立つ説明会であった。

特に、金融機関、ホテル、警視庁など34企業・団体からの参加を得た。また、ジョブカフェ(若者就職支援機関)、大分県福祉人材センター(福祉職場相談機関)、東京アカデミー(公務員・教員受験相談)などの団体からも参加協力があつた。



「公務員試験合格者体験報告会」2月4日(水)開催

平成20年度の公務員試験に合格した4年次生から、現在、受験準備に取り組んでいる3年次生へのアドバイスを目的に開催した。報告者は、大分県の警察官に合格した三浦忠朗君(文化財学科)と亀田剛志君(国文学科)、熊本県の人吉市役所に合格した中村奈緒美さん(文化財学科)の3名でした。

その内容は、受験した公務員試験の種類、公務員試験に向けての学習計画、さらには、学習方法、特に不得意科目の克服法などが中心でした。

なお、各公務員試験には、それぞれの特色があり、やはり過去問を研究して、それに応じた対策を立てることが必要とのことでした。

最後に、合格の秘訣については、公務員試験は試験日が異なれば全て受験できるので、実施要項を見て受験計画を立てることが肝要とのことでした。

当日は、全体会として3名から報告を受け、そのゴア個別に面談して直接アドバイスを聞くこととしました。3年次生の参加者は28名でした。参加者から合格者の生の声を聞いて大変有意義でしたとのことでした。

福岡での「合同企業説明会」に参加

平成20年12月19日(金)に88名(バス2台)、20日(土)に128名(バス3台)、平成21年2月5日(木)に45名(1台)の計261名(6台)で毎日コミュニケーションズ主催の「マイナビ就職EXPO」に参加。平成21年1月31日(土)に111名(バス3台)でリクルート主催の「リクナビ・開幕LIVE福岡」に参加。合計372名(バス9台)の学生が参加した。いずれも福岡のヤフージャパンドームで開催された。

昨年の10月からはアメリカの金融危機を発端に日本にも自動車メーカー、電気メーカー、不動産業界等に大きな影響が出てきて、全国的には内定を取り消される学生や派遣社員の解雇などのニュースが多く聞かれています。3年次生にとって求人数が激減するという厳しい状況に備え、例年2月初旬に参加していたが、昨年の12月中旬から4回参加し早めにアタックした。昨年度は、310名の参加でしたが、当日の会場では危機感を反映して学生たちの動きも昨年度以上に活発で真剣に話を聞いている姿が見られた。

石垣祭

GIFT

今年の別府大学石垣祭は63回目を迎え、11月15日、16日の2日間に渡り開催されました。

今年のテーマは、本学の学生、地域の方々、教職員の方々に石垣祭を通じて感動を贈りその感動と一緒に分かち合いたいという意味を込めて、「GIFT」というテーマにしました。



GIFTには一文字ずつ意味があり、「G」はGIVE(与える)、「I」は愛(感動)、「F」はFULL(たくさんの)、「T」はTogether(一緒に)という意味が込められています。

今年は、別府大学創立100周年という記念すべき年であり、100周年にちなんだ企画も行いました。学生一同記念すべき年を祝い、企画にも一致団結した面持ちで参加していました。

初日の昼から、雨の為ステージを体育館に移動して行いました。生憎の雨にも関わらず、多くの学生、地域の方々に来学していただき、ステージ企画や、模擬店・教室展示を見て、楽しんでいただいている姿が印象的でした。

そして、石垣祭の締め恒例となった、沖縄県人会の「エイサー」が行われ、学生、地域の方々も一緒に踊っている姿を目にし、石垣祭に参加して下さった皆さんに、感動というGIFTが贈れたのではないかなのではないかと思います。

(石垣祭実行委員長 野田竜治)

秋桜祭

輝 キラメケ！青春

今年度の文化祭も、保育科・地域総合科学科の1年、2年それぞれの学年で、ステージ発表・模擬店のグループに分かれて、学生全員が協力し、準備を進めました。クラスごとのステージ発表は、ダンスや歌、そしてソーラン節を行いました。どのステージも迫力があり、大変楽しい発表でした。発表者はもちろん、観客も全員一体となって、盛り上がるものでした。留学生の民族ダンスや、X-SWEETという留学生アーティストのステージでは、異文化交流ができました。

ステージ最後のスライドショーでは、秋桜祭の準備や当日の様子を撮影した写真を上映しました。暗くなったステージに写真が映し出され、感動一際でした。この日、秋桜祭のシメとして、花火大会を行いました。キャンパスの真上に広がる花火は迫力満点で、他では見ることのできないものでした。第16回秋桜祭は保育科・地域総合科学科の学生一人一人全員が協力し、大成功に終わりました。

(秋桜祭実行委員長 加藤ゆかり)



サークル紹介

人との繋がりの中で学ぶ M・A・P



今回は、別府大学文化会所属サークル、M・A・P(エム・エー・ピー)サークルをご紹介しますと思います。

M・A・Pとは、Mental(心から)・Amusement(楽しみ)・Positive(積極的)の略で、何事にも積極的に参加し、心から楽しむと共に、人との繋がりの中で様々な事を学ぶことを目的としたサークルで、文化会の所属で活発に活動している数あるサークルの中の1サークルです。

M・A・Pは現在、男子15名、女子6名で構成されており、学内外問わず積極的に活動しています。

これまでの活動内容として、第8回大分県民芸術文化祭に参加し、フリーダンスコンテスト、「快踊樂舞(かいとうらんま)&幼稚園児によるお絵かき展」を企画運営しました。

また、別府市のイベントでは、毎年10月に別府公園で行われる、BEPPUダンスフェスタにも企画の段階より参加しています。毎年夏頃より約十数回の実行委員会にて話し合いが行われ準備を行っています。M・A・Pは、大学の行事やイベント、企画、ボランティアなどを通じ、様々な方々との交流も深めています。もちろん楽しんで参加する事がなにより大事ですが、産官学を交えた人との繋がりの中で、様々な経験をして自分自身が成長することが一番大切だと思います。また、その事が大学生活はもちろん、社会に出た時にその経験が生かせるのではないかと考えています。

(第29代別府大学文化会会長 石本直也)

大分国体でボランティア活動 バレーボール部



昨年10月、42年振りに国民体育大会が本県で開催されました。本学も多くの学生がボランティアとしてこれに参加し、様々な部署で活躍

しました。中でも、スポーツ振興会所属のバレーボール部は、障がい者の「国体」である「第8回全国身体障害者スポーツ大会」に「ふうせんバレーボール」競技の審判として参加し、見事に重責を果たしました。

競技は障がいのある人とない人が一緒に6名のチームを組み、直径40センチのふうせんボールを打ち合うもので、基本的なルールはバレーボールに準じています。障がいのある人とない人がともに競技できるスポーツとしてこれからの普及が期待されています。本学のバレーボール部は7年前から本競技の審判に取り組んでおり、毎年、宇佐市で開催される「大分大会」に向け研鑽を積んでいます。

大会競技は10月12日に宇佐市「かんぼの郷宇佐体育館」で開催され、全国から選りすぐられた35チームが参加して終日熱戦を繰り広げた。本大会に向け例年に数倍する練習を積み重ねたバレー部は、てきぱきとしたジャッジで競技関係者の高い評価を博しました。

今国体における学生諸君の様々な活動に敬意を表するとともに、このようなボランティア活動を通して、学生諸君が今後のサークル活動に新たな方向を見出してくることを期待しています。

(バレーボール部顧問 友永植)

“受賞しました、合格しました”

日本公衆衛生学会で優秀ポスター賞

大学院食物栄養学研究科 吉村加奈
平成20年11月に福岡サンパレス・福岡国際会議場で開催された第67回日本公衆衛生学会において、本学大学院食物栄養科学研究科2年の吉村加奈さんの発表演題が優秀ポスター賞を受賞しました。



題目は「体験型学習を主とした食事指導が地域の糖尿病進展予防に及ぼす効果」。地域と連携しながら卒業研究から修士課程までの3年間に渡り取り組んできた研究の成果をまとめたものです。本年度の一般演題1533題の中から優秀な発表演題として選ばれたことは非常に名誉なこと。他に慶応義塾大学医学部衛生学教室から発表された演題などが受賞していました。

県音楽コンクールで1位

明星小学校4年 太田佳音
明星小学校4年、太田佳音さんが平成20年10月、iichiko音の泉ホールで開かれた「第36回大分県音楽コンクール」の小学3・4年生の部で第1位となったほかピアノ部門特賞を受賞しました。日々の努力が学



校生活の中にも生かされており、成長の糧となっていることがうかがえます。太田さんはこのほか「第10回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 九州大会」(10月)の小学3・4年生の部で銅賞、「第32回ピティナ・ピアノコンペティション九州大会」(8月)でB級(小4以下)奨励賞を受賞しました。

難関の旅行業務資格国家試験に合格

短大・地域総合学科 木村優希
短期大学部地域総合学科1年の木村優希さんが「国内旅行業務取扱責任者」試験に合格しました。旅行事務を行う会社にはこの資格を持った人が最低1人必要だと法律で定められています。全国で合格率約29%と非常に難しい国家試験であり、地域



総合学科で観光ビジネス系列を選択していた木村さんは毎日勉強に励んでいました。木村さんは資格を持っていることは就職上とても強みになる」と話しています。

県の「外国人地域貢献留学生」に認定

大学院文学部研究科日本語・日本文学専攻 金玉蘭

大学院文学研究科日本語・日本文学専攻博士後期2年の金玉蘭さんが「大分県外国人地域貢献留学生」に認定され、1月28日大分県広瀬勝貞知事から認定証を授与されました。地域貢献留学生認定証とは、地域活性化に貢献した留学生に授与するの



で、本校としては初めての授与者になります。

金さんは全国障害者アーチェリー大会にて韓国選手団の同行通訳、韓国絵本の読み聞かせ活動などが評価されました。

後輩へ残す言葉



「後輩諸君へ」

それぞれの使命を果たすべく、自分の見出した「道」を諦めずに休まないで歩み続ける姿勢こそが、在校生の皆さんにとって最もたいせつなことであるように思えます。

自分だけしか歩めない「道」、自分だけに与えられた「道」、これらの「道」を切り開くためには、前を見据えて着実に歩を進めなければなりません。それがたとえ遠い「道」のように思えても、休まず歩けば必ず新たな道が拓けてくるはずです。そこから深層なる喜びもまた生まれてくるはずです。

後輩諸君には自分自身の「道」を刻み、たくさんの経験をしてほしいと思う。そのための大学生活が別府大学にはあるのだから。

(史学科 横尾啓太)



「初心を忘れるな」

別府に来て、あっという間に2年間がたちました。来日する前に、大学の恩師は「留学の初心を忘れるべからず」と言ってくれました。今まで会社員として平凡な日々を送ってきた私は、留

学生生活はただ単に勉強とアルバイトだけに終わることなく、多くのことを経験し、多くのことを学ばまたないチャンスだと思っています。私はそう思うだけではなく、行動に付して、いろいろ経験したおかげで、今振り返ってみると、充実した悔いのない日々を送ることができ、楽観的に過ごし、心の強さも身につけることができました。

4月から社会人として日本という異国で新しい生活を迎えることとなりますが、これから、どんな困難があっても、たとえ失敗しても、頑張り続けられる自信があ

りますので、強い心を持って、暖かい気持ちで頑張っていこうと思います。

最後に、これから別府大学で留学生生活を展開する皆さんの活躍と健闘を心からお祈りします。

一緒に頑張りましょう！

(英文学科 コウエイエイ 洪莹莹)



「学んだことを将来に生かせ」

食物栄養科では、栄養士になるために、基礎となる栄養・調理の他に身体や病態に関することも学びます。食と健康は日常生活でも役立つ身近な学問です。そのため、学んだことは必ず将来に生

かせると思います。

学科の先生方は、一人一人に熱心に指導していただき、クラスの雰囲気は和気あいあいとしています。そして文化祭の出店や、海外・国内研修等を通して、更に仲が深まってきます。このような環境のなかで、充実した二年間を過ごしてほしいと思います。

(短大・食物栄養科 松崎奈々)



「充実した実習で自分の道を」

私は、「起こること、すべてベスト」という言葉が好きです。目の前の事に一生懸命に行い、グループメンバーをも協力し合うことで充実した実習をすることができました。

私は、母性看護学実習を通して「生命の誕生」の場面に立ち合い感動し、もっと学んでみたいと思い産産師への進学を決めました。

後輩の皆さんにも、実習を通して自分の進むべき道が開けてくることを願っています。

(附属看護専門学校全日制 矢野尋子)

私が薦める本

「食の変遷から日本の歴史を読む方法」

武光 誠著（河出書房新社）

地域における食文化・食生活には、その地域独特の地形や自然環境、歴史的背景が複雑に影響を与えている。食文化を高める要素はさまざまであるが、良くも悪くもよりよい食生活を求める人々の営みは、今後も直実につづけられていき、時代の変遷とともに「食」のあり方も変化していくのだろう。日本の歴史に興味がある方、食生活・食文化に興味のある方にお薦めしたい一冊です。

（食物栄養学科 森脇千夏）



「謎の大王 継体天皇」

水谷千秋著（文藝春秋新書版）

継体朝は新王朝であるとの説もあるようだが、水谷氏は応神天皇5代の子孫に当たる血統の方が、地方の豪族と中央の力関係の中で即位されたと推理している。専門の歴史家は本学にも大勢おいでなので、門外漢の私が他の方にお薦めするというのもお恥ずかしい次第ではあるが、読んでみたら考証もしっかりとなされているようだし、その推理の課程が緻密で説得力があり、推理小説以上におもしろいものであった。私の関心、興味に添えてくれた本として掲げた次第である。

（短大・保育科 金子進之助）



「草の花」

福永武彦著（新潮文庫）

この小説は多分に自伝的な作品で、作者の青春の書である。人が人を愛するということがどういふことなのか甘美な言葉で語られる。愛の対象が異性であれ同性であれ、それは人の魂を揺さぶるにはおかない。戦争と結核という人の生死を左右する出来事を背景に、一人の主人公の魂の孤独と愛が描かれる。今年に福永の没後30年にあたるが、それに関してどこかで話題になっているかどうか寡聞にして知らない。しかし、そのことは読むための一つの契機となるかもしれない。

（英文学科 河野豊）



「容疑者Xの献身」

東野圭吾著（文春文庫）

本書は、当代一の売れっ子ミステリー作家東野圭吾の直木賞受賞作で、昨年10月には映画化され大ヒットしました。ストーリーは、物理学者湯川学（愛称：ガリレオ）と彼の親友であり事件の被疑者を庇う高校教師との知恵比べです。湯川の冷徹な分析、親友の完全犯罪完成への情熱は、まさに手に汗握るものがあります。さらに、登場人物の苦悩、煩悶等心理描写の素晴らしさが、本作品を単なるミステリー以上のものにしていきます。

（短大・地域総合科学科 下山邦男）





別府大学 国際経営学部

2009年4月開設 国際経営学科
あなたの夢は世界へ

■ 国際経営コース

製造業のみならず、サービス・通信/運輸・放送文化・病院などあらゆる企業・事業がグローバル化・国際化するなかでどのような製品・サービスを創り、どのように消費者に提供するかを、時代を先取りし、国際経済や地域経済を先導する国際的な経営管理者を育てます。

■ 会計・税理士コース

国際的な経済・経営学を学び、簿記・会計学の諸技法をしっかりと身につけ、企業がいまどこに進んでいるのか、今後どこに向かうべきかを数値的に明確にし、経営管理に役立ち、また自ら独立した資格を持ち、国民経済や地域経済に貢献していける専門職業人を育成します。

■ 観光経営コース

国際的な視点から観光事業を計画・立案し、それを実現する現場に携わることで、日本や世界の国々を駆けめぐり、多くの人々との「絆」をつくることのできる観光経営管理者を育てます。特に「国際観光文化都市」別府を拠点に、あなたの夢を世界に広がります。

【取得できる免許・資格】

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民・商業・情報)
- 税理士(受験資格)
- 中小企業診断士(受験資格)